

# 虎の門病院における無痛分娩

## 1. 無痛分娩とは

無痛分娩とは陣痛の痛みを軽くする方法です。当科では硬膜外麻酔という腰から入れたカテーテルから麻酔薬を入れる方法で実施しています。

必ず計画分娩としていますが、もし計画前に陣痛が発来した場合も、緊急で無痛分娩に対応する方針としています。

## 2. 対象

- 計画無痛分娩を理解し希望する方。
- 心臓や脳などに病気があり、陣痛による母体の負担を軽減することが望ましい方。

## 3. 申し込み

- 妊娠 16 週～20 週頃の分娩申し込み時に、ご希望をうかがいます。
- 妊娠 35～36 週に最終的なご希望と医学的判断をもとに実施を検討します。
- 計画無痛分娩は妊娠 39 週頃を目安としますが、お産回数や子宮口の状態などによって計画日を決定します。

## 4. 説明と同意

- 無痛分娩：麻酔科外来で無痛分娩の利点と合併症などを含む説明を受けたうえで、文書による同意をいただきます。
- 計画分娩(分娩誘発)：産科外来で分娩誘発の利点と合併症などを含む説明を受けたうえで、文書による同意をいただきます。

## 5. 計画分娩

安全性の観点から、現在は全例計画分娩としています。最初からオンデマンド無痛分娩（自然陣痛開始後の無痛分娩）をご希望の方をお引き受けすることはできません。ただし、計画前に陣痛が発来した場合は、24 時間体制で緊急無痛分娩を行う方針としています。計画分娩の利点、副作用については「無痛分娩の説明書」「分娩誘発・陣痛促進の説明書」を参照してください。

## 6. 計画無痛分娩の実際

- 1) 前日に入院し、母体と胎児に異常がないかチェックします。状況により、お産が進みやすくなるように子宮口を開かせる処置(頸管拡張)を行います。
- 2) 当日の朝から陣痛促進剤を点滴して陣痛を誘発します。
- 3) 陣痛が発来したら、麻酔科医が腰から硬膜外カテーテルを入れ、陣痛を和らげます。
- 4) 陣痛が弱くなったり、回旋異常が起きやすくなるため、吸引分娩や鉗子分娩などの機械分娩になる可能性が高くなります。

5) 日中に陣痛が発来しなかった場合、夜間は陣痛促進剤の投与を終了し、翌朝から分娩誘発を再開します。

## **7. 計画分娩の注意**

2～3 日間分娩誘発を行っても陣痛が発来しない場合、一旦退院し、翌週以降に計画分娩を再設定することがあります。

## **8. ご質問・ご意見**

無痛分娩に関するご質問・ご意見がありましたらお気軽にスタッフまでお尋ねください。